

-大学院歯学独立研究科-
第 94・95 回 中間発表会 プログラム

大学院学生等が、これまでの研究成果を発表します。
 どなたでも聴講できますので、多数の参加をお待ちしております (聴講申込不要)

場 所：実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナー室
 日 時：2018 年 7 月 25 日 (水) 17 時 25 分 開会
 2018 年 8 月 29 日 (水) 17 時 25 分 開会

—第 94 回中間発表会—
 2018 年 7 月 25 日 (水) 17 時 25 分 開会

No.	発表区分・予定時間	演題名・発表者	審査委員
	17:55	開会挨拶 高橋研究科長	
1	[中間発表] 17:30~18:00 司会：吉成 教授	「頸動脈狭窄症(頸動脈石灰化) と歯周病を含む合併症の関連性についての臨床研究」 (Clinical survey on relationship between carotid artery calcification(carotid stenosis)and its complications including periodontal disease) 石岡 康明 4年 健康増進口腔科学講座 口腔健康分析学	主査：芳澤 教授 副査：澁谷 教授 小出 講師

—第 95 回中間発表会—
 2018 年 8 月 29 日 (水) 17 時 25 分 開会

No.	発表区分・予定時間	演題名・発表者	審査委員
	17:25	開会挨拶 高橋研究科長	
1	[中間発表] 17:30~18:00 司会：山田 教授	「外科的矯正治療前後の顎変形症患者のスマイル時の口唇運動の解析」 中根 隆 3年 硬組織疾患制御再建学講座 臨床病態評価学	主査：大須賀 教授 副査：岡 藤 教授 横 井 講師

発表内容の要旨(課程博士)
Abstract of Presented Research (For the Doctoral Course)

学籍番号 Student ID No.	ID#G 1501	入学年 Entrance Year	2015 年 Year
(ふりがな)	いしおか やすあき		
氏名 Name in Full	石岡 康明		
専攻分野 Major Field	健康増進口腔科学講座口腔健康分析学		
主指導教員 Chief Academic Advisor	吉成 伸夫		
発表会区分 Type of Meeting	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">中間発表会</div> ・ 大学院研究科発表会 ・ 松本歯科大学学会 <small>Midterm Meeting / Graduate school research meeting presentation /The Matsumoto Dental University Society</small>		
演題名 / Title of Presentation			
頸動脈狭窄症(頸動脈石灰化)と歯周病を含む合併症の関連性についての臨床的研究 Clinical survey on relationship between carotid artery calcification (carotid stenosis) and its complications including periodontal disease			
発表要旨 / Abstract			
<p>【目的】 歯周病が心筋梗塞や脳卒中の原因である動脈硬化症のリスク因子であることが多くの疫学研究より報告されている。しかし、頸動脈狭窄症(頸動脈石灰化)と歯周病所見の関連性に関する報告は皆無である。今回我々は、Computed Tomography(CT)画像から頸動脈狭窄症と、歯数、歯槽骨吸収程度、修復・補綴物、年齢について関する後ろ向き臨床研究を行った。</p> <p>【方法】 松本歯科大学病院に来院し、顎口腔領域疾患の診断のために、パノラマエックス線写真およびCT撮影を受けた患者の中で本研究に同意した被験者を、CT画像所見から頸動脈狭窄群と健常(非頸動脈狭窄症)群に分類した。さらに、年齢、現在歯数、歯槽骨吸収程度と頸動脈狭窄症との関連性を検索した。</p> <p>【結果】 被験者は417名(男性:229名,女性:188名)で、年齢は30歳から95歳、平均年齢は65.0±12.1歳、平均現在歯数は20.3±5.1歯であった。その内訳として頸動脈狭窄症群は、被験者247名(男性:132名,女性:115名)、平均年齢は68.3±12.2歳、平均現在歯数は18.4±8.3歯であった。一方、健常群は、170名(男性:97名,女性:73名)、平均年齢は60.1±10.0歳、平均現在歯数は23.0±5.1歯であった。年齢は、頸動脈狭窄症群で50歳代から被験者が増加し、60~70歳代で顕著であった。年代ごとの性別は、70歳代男性、70歳代女性、60歳代男性の順に多かった。現在歯数の比較では、頸動脈狭窄症群で有意に少なかった(<i>Un-paired T-test, p < 0.001</i>)。</p> 次に、パノラマエックス線写真所見から歯槽骨吸収の重症度を4段階のP ₁ ~P ₄ に分類して検討した結果、健常群ではP ₁ :69.4%, P ₂ :21.0%, P ₃ :5.9%, P ₄ :2.9%に対し、頸動脈狭窄症群ではP ₁ :33.6%, P ₂ :44.1%, P ₃ :15.4%, P ₄ :3.3%となり、P ₁ が健常群の1/2程度と少なく、中等度から重度のP ₂ ~P ₄ の合計が約33.0%と多かった。また、頸動脈狭窄症群の合併症の比率は高血圧症:36.4%, 脂質異常症:10.1%, 糖尿病:6.9%であり、過去の報告と同様に合併率が頸動脈病変を有する患者では高かった。 <p>【考察】 以上の結果より、頸動脈狭窄症群は、加齢とともに被験者数が増加するのに対し、平均現在歯数は健常群と比較して有意に少なく、加齢とともに減少傾向を認めた。特に、60歳代、70歳代で平均現在歯数に有意差を認めたため、頸動脈狭窄症群は年齢および現在歯数と関連性が高く、歯周炎によると推測される歯槽骨吸収により予後不良と診断され、抜歯処置を受けた可能性が高い歯数の減少を考慮すると、さらなる経年的な歯数減少という結果を示唆するのかもしれない。</p>			

発表内容の要旨(課程博士)
Abstract of Presented Research (For the Doctoral Course)

学籍番号 Student ID No. (ふりがな)	ID#G 1604	入学年 Entrance Year	2016 年 Year
氏名 Name in Full	なかね たかし 中根 隆		
専攻分野 Major Field	硬組織疾患制御再建学講座 臨床病態評価学		
主指導教員 Chief Academic Advisor	山田一尋		
発表会区分 Type of Meeting	中間発表会 ・ 大学院研究科発表会 ・ 松本歯科大学学会 Midterm Meeting / Graduate school research meeting presentation /The Matsumoto Dental University Society		
演題名 / Title of Presentation			
下顎骨偏位を伴う骨格性下顎前突者のスマイル時の口唇と頬部の三次元的運動解析			
発表要旨 / Abstract			
<p>矯正治療では、咬合のみならず顔貌の改善がみられる。静的な顔貌の変化に加えスマイルなど動的な顔貌の二次元的改善が報告されているが、三次元的研究は少ない。そこで下顎骨偏位を伴う骨格性下顎前突者の外科的矯正治療前後のスマイル時の口唇の動きを三次元的に解析することとした。</p> <p>松本歯科大学病院育成期口腔診療部門を受診した偏位を伴う骨格性下顎前突患者 5 名を対象とした。外科的矯正治療前後の安静時とスマイル時の顔面をステレオカメラで撮影し、スマイル時の口唇の動きを三次元解析ソフトウェアを用いて立体構築し、治療前と治療後のスマイル時の口唇と頬部軟組織の動きを解析した。</p> <p>治療前は、口角部では前後方向は非偏位側が偏位側に比べ有意に後方へ移動し、水平方向では偏位側が非偏位側に比べ有意に外側へ大きい移動を示した。頬部では水平方向は偏位側が非偏位側に比べ外側へ有意に大きく移動し、三次元距離は偏位側が非偏位側よりも有意に大きい移動距離を示した。治療後は、偏位側と非偏位側の比較で、口角部と頬部の前後方向、水平方向、垂直方向および三次元距離で有意差は見られなかった。</p> <p>外科的矯正治療に伴い、顔面骨格の改善に加え軟組織運動も改善することが示された。</p>			